

廃棄寸前リーバイス 20トン再生

定番「501」、直して販売・生地にも



工場の一角に店舗を構え、独自ブランドとして販売する。

服下請け ヤマサワプレス

アパレルの下請け工場を営むヤマサワプレス(東京・足立)は、廃棄寸前のジーンズ「リーバイス501」20tを再生させるプロジェクトを立ち上げた。洗浄やお直しの技術を生かしアップサイクルやリメイクして販売するほか、生地にしてデザイナーに提供する。アパレルがサステナブルの波に翻弄されるなか、自らファッションの価値を創造する。

米国の西海岸の倉庫で捨てられる直前だったリーバイス501を買い付けた。米リーバイ・ストラウスから正式な承認を得たという。定番ジーンズとして広く知られる501を素材に、再生ストリーパー価値を紡ぐ。



1点1点、馬の毛でブラシして洗濯し、ABCランクで仕分けする

シを使って洗浄し、ランク分けする。補修すればよみがえるものは、独自ブランド「ワンオーファイブ・デニムトウキョウ」として直販サイトや工場の一角で販売する。全て1点もので、価格は1万3200〜2万8600円。購入後もお直しを受け付ける。

平行して生地として売りに出す。三越伊勢丹がこのプロジェクトに参加し、生地を使いものづくりにしたいブランドやクリエイターと交渉中だ。ファッションのほか家具や雑貨、靴など幅広く使ってもらうことを想定する。今秋には伊勢丹新宿店(東京・新宿)などで商品を展開する予定だ。ヤマサワプレスは1995年に創業。大手メーカーを始め数多くのアパレル企業と取引し、店頭に並ぶ前の服のアイロン掛けや検品、札の取り付けを請け負っている。

サステナビリティ
sustainability
2021



の当たりりにしてきた。「下請けに甘んじるのではなく、自分たちが培ってきた洗浄の技術や仕分け力を生かし、ファッションの楽しさを提供していきたい」(山沢亮治社長)という。

プロジェクトには渋谷文化をつくった洋服店ジョンズクロージング元オーナーの河原拓也氏や、人気古着店キートンを経営してきた金子邦夫氏も参加している。(編集委員 大岩佐和子)

アクリル端材の輝き

クリエイター

環境問題でとかく悪者扱いされるプラスチック廃棄物。「でも、付加価値をつけて捨てられないようにすればいい」と



ユニタ
売はぼ
・銀座



ユニ
グは傘下
と「ジ
について
値下げす
4月から